

単位数	2	学科（型） 学年	建設工学科(建築型) 3年	教科書 副教材等	建築法規（実教出版） 建築基準法関係令集（建築資料研究社）
学習目標		建築に関連する法規の中でも最も重要な建築基準法を中心に学ぶ。 建築基準法は、生活空間の悪化の防止を目的として、すべての建築物に適用される基本的なルールであるので、建築法規に関する知識を習得し、建築物の計画、設計、施工、管理などに活用する能力と態度を育てるとともに、建築技術者として法令順守する倫理観を養う。			
学期	学習内容			学習のねらい	
1	第1章 建築法規のあらまし 1 建築基準法の意義 2 法規の体系と建築基準法の構成 3 建築基準法の基本用語 第2章 個々の建築物に関わる規定 1 一般構造・建築設備についての規定 2 構造強度についての規定			□建築基準法の意義を学び、建築物の特徴、法規の体系を知る。 □建築基準法の体系を理解し、法規用語を学び、建築物の面積・高さ・階数等の算定ができるようにする。 □室内環境・衛生・日常安全についての規定を理解する。 ・構造規定のあらましと、各構造ごとの構造規定、構造設計の方法を学ぶ。	
2	3 防火と避難についての規定 第3章 良好な都市環境をつくるための規定 1 都市計画法と建築基準法 2 土地利用 3 道路と敷地			□防火と避難に関する建築基準法と消防法相互の関連や建築の計画や設計に必要な基本事項を理解する。 □都市計画法の目的、建築基準法の集団規定の意義や目的を、相互の関連とともに理解する。 ・用途地域、防火・準防火地域内の構造制限などについて理解する。 ・道路と敷地の関係を理解する。	
3	4 密度に関する規定			□密度規制の目的とあらましとともに、建ぺい率、容積率の算定方法を理解する。	
評価の観点		内 容			
知識・技術		・建築物の構想の具現化に役立つ実践的な知識を身に付け、建築物の設計や施工に関わる業務に、建築法規の知識を活用できる。 ・建築物の具現化に役立つ実践的な知識を身に付けるとともに、建築法規のもつ意義や効果を理解している。			
思考・判断・表現		・都市生活の安全性や生活環境に関わる建築法規の役割について、自らの思考を深め、実際の事例に適切に判断し、建築の計画や設計などに的確に表現できる。			
主体的に学習に取り組む態度		・建築物や都市生活の安全性、良好な都市環境を保つ観点などから、建築法規の必要性や諸問題に関心を持ち、建築の計画や設計などの実践的な学習に役立てようとしている。			
評価方法	定期考査の成績に、授業中や長期休み中に出される課題、授業ノートや授業態度・学習意欲などを平常点として加味し、各学期ごとに成績を出します。それらを学年末において総合的に判断して評価します。				
学 習 に 対 す る ア ド バ イ ス と 留 意 事 項					
○法令集の編成を理解し、活用できるようにしましょう。課題や授業ノート等の提出は期日を守りましょう。 ○学習する単元に関連する条文は、必ず法令集で確認し、後で分かりやすいように学んだところにマーカーを付けましょう。 ○具体的な事例の練習問題を解いて、条文の理解度を深めましょう。					